

**製品名:** TESK1 ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab18800

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	68kDa

## 抗原情報

遺伝子名	TESK1
別名	TESK1; Dual specificity testis-specific protein kinase 1; Testicular protein kinase 1
遺伝子 ID	7016.0
SwissProt ID	Q15569
免疫原	抗血清はヒト TESK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 181-230

## 背景

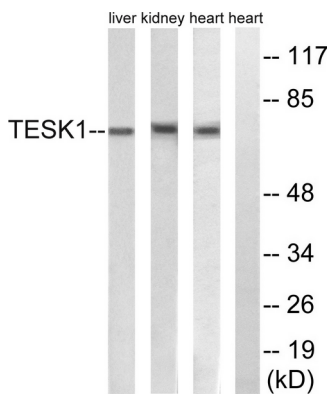
精巣特異的キナーゼ 1 (TESK1) ホモサピエンス この遺伝子産物は、N 末端にプロテインキナーゼドメイン、C 末端にプロリンリッチドメインを有するセリン / スレオニンプロテインキナーゼです。このプロテインキナーゼドメインは、LIM モチーフ含有プロテイン

キナーゼ (LIMK) のキナーゼドメインに最も近縁です。コードされているタンパク質は、in vitro においてミエリン塩基性タンパク質およびヒストンをリン酸化することができます。マウス遺伝子の精巣生殖細胞特異的な発現と発現パターンは、この遺伝子が精子形成の減数分裂期およびそれ以降に重要な役割を果たすことを示唆しています。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。 [RefSeq 提供、2015年12月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。 ,補因子: マグネシウム。 ,補因子: マンガン。 ,ドメイン: 触媒外C末端領域はプロリン残基に非常に富んでいる。 ,酵素調節: Ser-220の自己リン酸化によって活性化される。 ,機能: セリン/スレオニン残基とチロシン残基の両方における自己リン酸化と外因性基質のリン酸化を触媒する二重特異性タンパク質キナーゼ活性。精子形成の減数分裂期およびそれ以降に中心的な役割を果たすと考えられる。 ,PTM: セリンおよびチロシン残基が自己リン酸化される。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。TKL Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。 ,類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。 ,サブユニット: SPRY4と相互作用する。 ,

## 研究分野

微小管ダイナミクスの制御

## 画像データ



TESK1 抗体を用いたラット心臓、ラット腎臓、ラット肝細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーン合成ペプチドでブロッキングされている。